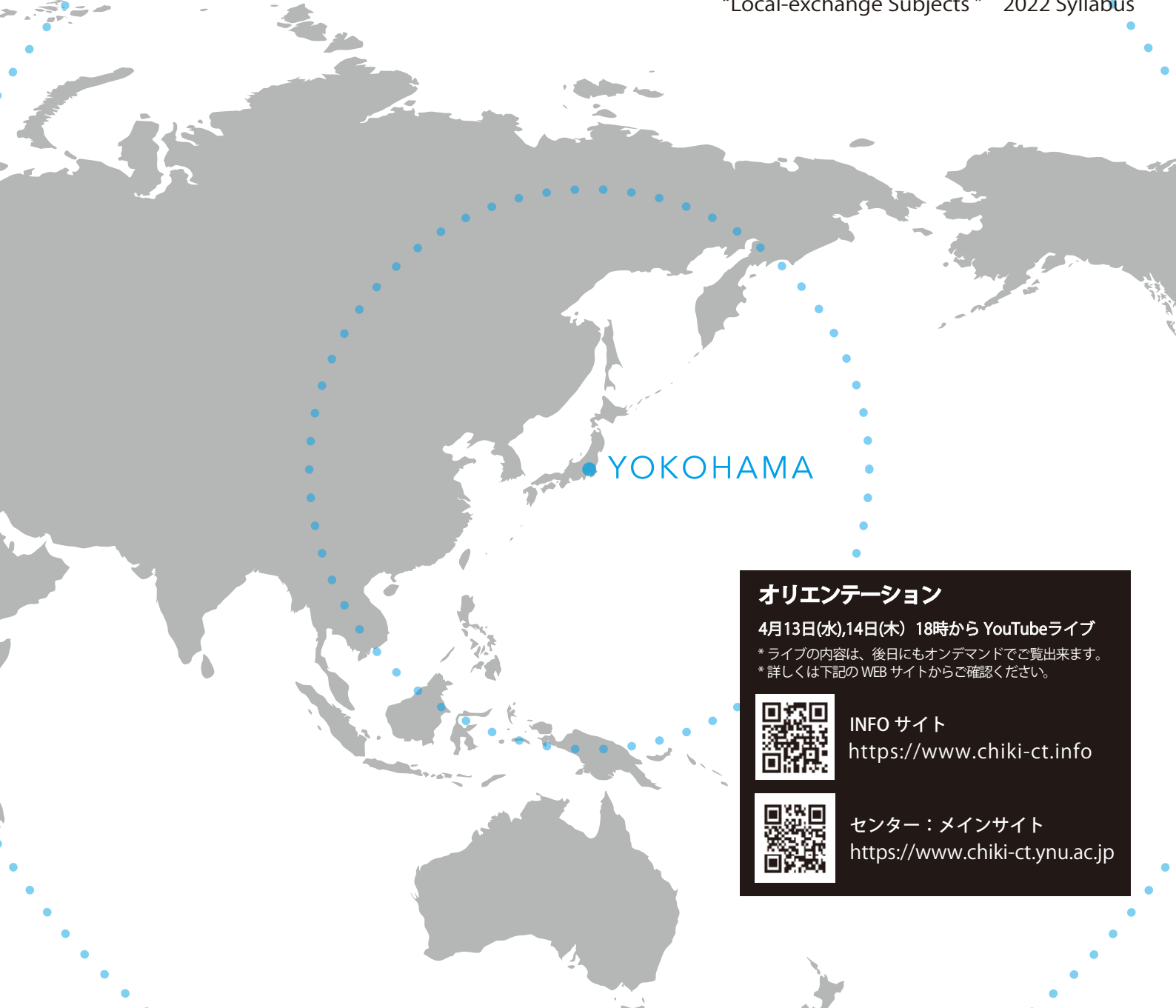


横浜国立大学 副専攻プログラム
Yokohama National University Undergraduate sub-major program

地域交流科目 履修案内 2022

"Local-exchange Subjects" 2022 Syllabus



オリエンテーション

4月13日(水),14日(木) 18時から YouTubeライブ

* ライブの内容は、後日にもオンデマンドでご覧出来ます。
* 詳しくは下記の WEB サイトからご確認ください。



INFO サイト
<https://www.chiki-ct.info>



センター：メインサイト
<https://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>

グローバルな視野をもって地域課題を解決する
先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラム

This program trains students to solve local challenges
with a global perspective and acquire advanced, integral, practical skills.

『地域交流科目』の概要

Outline "Local-exchange Subjects"

グローバル化が進むなかで、実際の経済活動の場である都市・地域の活力を維持し、そこに生活する市民の生活の質をいかに高めていくかが、21世紀初頭の課題になってきています。

このような現代的課題とニーズに対応するため、本学では、「教育学」「経済学」「経営学」「理工学」「都市科学」が連携して、各学部領域を横断して学べる副専攻プログラム「地域交流科目」を設置し、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラムを設けています。

*副専攻プログラムとは

副専攻とは、自分自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学習するプログラムです。

副専攻プログラムである「地域交流科目」は、「地域」に関わる知識を学部横断型で学び、地域への「交流」を踏まえながら、実践能力を身につける副専攻プログラムとなっています。

*副専攻プログラムの修了認定

- ・修了認定の要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。
- ・修了が認定されると、成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム（地域実践）修了」と記載されます。
- ・これまでの実践的な取り組みを就職や進学の際に端的にアピールするものとして効果が期待できます。

* About the Undergraduate sub-major program "Local-exchange Subjects"

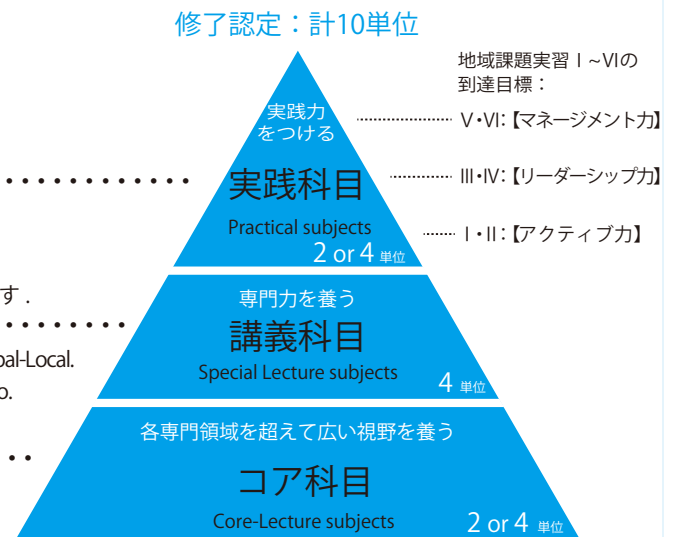
Local-exchange Subjects connects independent subjects from all departments to train students as young talent who can solve local challenges with a global perspective. This program consists of ①Core-Lecture subjects, ②Special Lecture subjects, ③Practical subjects. On completion of these ten credits through attendance and participation, the student will be awarded a completion certificate for the accredited sub-major program.

*地域交流科目のプログラム体系

- ・実践科目は各地域の課題を解決するために実践的活動です。
- ・地域課題実習やその他の実践的な授業から、学生は選択できます。
- ・多くの学生が複数年にわたり履修・参加しています。
- ・The Practical subjects are active to solve the problem in local.
- ・Student can select a project from the Local Challenges Trainings.
- ・Many students are studying it over the years.

- ・講義科目は各学部から提供されている地域に関する専門的講義です。
- ・自分自身が所属する学部以外の講義の受講が可能です。
- ・Special Lecture subjects are picked up by each department about the Global-Local.
- ・It is possible to take the lectures outside of the department you belong to.

- ・コア科目では地域に関する基礎的な知識を学べます。
- ・地域で活躍する教員・実務者・行政によるオムニバス講義です。
- ・Learn about the basics of local areas.
- ・Omnibus lecture by the professor, businessman, government.



単位の修得例：
コア科目 4 単位 + 講義科目 4 単位 + 実践科目 2 単位 = 計 10 単位
コア科目 2 単位 + 講義科目 4 単位 + 実践科目 4 単位 = 計 10 単位

※地域課題実習は 2022 年度から地域課題実習 V、VI が加わります。各段階の到達目標は下記のとおりです。

- ・**地域課題実習 I・II:【アクティブ力】** 対象とする地域の特徴や課題、およびプロジェクト活動の内容を把握する。プロジェクト活動を通じてコミュニケーション力をつけ、能動적およびアクティブに活動を実践できる力をつける。
- ・**地域課題実習 III・IV:【リーダーシップ力】** プロジェクト内のグループの班長、さらにはプロジェクトのリーダーとして、活動を推進する力をつける。また、地域関係者との連絡・調整を行うことができるコミュニケーション力を身につける。
- ・**地域課題実習 V・VI:【マネジメント力】** プロジェクトのリーダーとしてプロジェクトをマネジメントする力を身につける。また、地域課題実習全体に目を向けて横断的な連携や、国内外における様々な取組みに目を向けた情報発信など、プロジェクト活動の更なる発展や展開方法などを図る力をつける。

履修・申請の流れ

Step for the take the subjects and applications



「オリエンテーション」

4月13日(水),14日(木) 18時～

オンライン開催

*詳しくは下記のINFOサイトで確認下さい。

<https://www.chiki-ct.info>



地域交流科目の説明や、
地域課題実習の各プロジェクト等の紹介があります。
教員や昨年から履修・参画している学生達からの
楽しく充実したプレゼンテーションが盛り沢山。
気になる方はCheck out !



「履修登録」

副専攻として履修する単位が、各学部における卒業取得要件と重なる場合は、
どちらの単位としても認められます。

最重要

実践科目：「地域課題実習」を履修・参画する全員の方へ：

地域課題実習のⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ,Ⅵのいずれかを履修登録した上で、
「所属したいプロジェクト (p.5,6掲載)」を、下記サイト・QRコード先の
「地域課題実習 参画プロジェクト申請フォーム」から
登録申請をしてください。

<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/education/sanka/>

(登録申請をしないと成績が付きません！)

■ 申請×切は4月21日(木) 23:59まで



地域課題実習は1年間を通じて
同じプロジェクトを
履修・参画してください。

要既読

地域課題実習を
「単位履修なしで参画したい人」も
所属したいプロジェクトの
登録申請をして下さい。

要既読

秋学期に
「地域課題実習ⅡorⅣ」を
履修登録し忘れないように！
忘れる人が多いです。>_<;

要既読



「地域交流科目」計 10 単位

「地域交流科目」は、4年間をかけて、
どの科目・授業から履修しても良いです。

修了認定
申請書

「修了認定」の申請

*修了認定は自己申請によって認定されます。

修了認定の要件：

- ①：コア科目 2単位以上 取得
 - ②：講義科目
 - ③：実践科目 2単位以上 取得
 - ④：上記①と③の合計6単位以上
 - ⑤：講義科目と合わせて上記①～③の合計が10単位以上
- *2022年度の申請分から「GPA 3.0以上であること」の要件が
外されました。

*申請方法が、2022年度より変更されます。

2022年4月以降に修了申請する人は、下記の申請フォームを通じて申請してください。

下記フォームにおいて、「貴方の地域交流科目の単位取得状況・結果を、事務局を通じて確認すること」を承認することで、
成績証明書の取得・提出は不要になりました。

- 修了申請フォームの掲載サイト：
センターメインサイト>教育>(様式3) 地域交流科目の修了証の申請および要項
<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/education/syuryou-ug/>
- 修了申請フォーム：<https://forms.office.com/r/0Y4g6Z0umd>

申請×切：4/22, 11/18, 2/17*

修了認定は自己申請によって認定されます。
修了申請を出すタイミングは、
単位取得直後でも、就活・進学前の時期でも
OKです。

要既読

- ・申請の×切後：1ヶ月後ぐらいに認定がされます。
- ・提出は随時受け付けています。



「地域交流科目」一覧

The List of the "Local-exchange Subjects"

●各授業の内容は、全学教育科目および各専門科目のシラバスをご確認ください。

地域交流科目でのカテゴリ	開講学部	科目名	担当	対象学年	開講期	単位	備考欄	
コア科目	全学教育科目/ 教養教育科目	地域連携と都市再生A(ヨコハマ地域学)	志村・内海・秋元	1~4年	春	2	※都市科学部生は学部共通科目として履修	
		地域連携と都市再生B(かながわ地域学)	志村・池島・伊集	1~4年	秋	2	※都市科学部生は学部共通科目として履修	
		神奈川のみらい	為近、船場	1~4年	春	2	H31よりコア科目にカテゴリ変更	
		横浜学--地域の再発見--	安野	1~4年	春	2	H31よりコア科目にカテゴリ変更	
講義科目	全学教育科目/ 教養教育科目	建築の環境と防災	河端 他	1~4年	秋	2	※一部学科・EP(建築系)履修不可	
		ベンチャーから学ぶマネジメント	井上 他	1~4年	秋	2		
		現代の物流経営	倉田	1~4年	秋	2		
		環境をめぐる諸問題Ⅰ	酒井 他	1~4年	第4ターム	1		
		環境をめぐる諸問題Ⅱ	松田 他	1~4年	第5ターム	1		
		グローバル化と日本人	市村	1~4年	秋	2		
		色彩論	渡辺	1~4年	春	2		
		安全・環境と社会	澁谷 他	1~4年	春	2		
		エネルギーと環境	辻	1~4年	春	2		
		海事技術史	南	1~4年	春	2		
		海洋工学と社会	海洋EP各教員	1~4年	秋	2		
		物質工学と社会	相原	1~4年	春	2	H31より新規科目	
		システム・エンジニアリング	藤井・田村	1~4年	春	2	H31より新規科目	
		海と地域のつながりと活性化	水井、船場	1~4年	休講	2	R2より新規科目	
		教育学部	日本史概論Ⅰ	多和田	2~4年	休講	2	隔年開講のため2022年度なし
		経済学部	地方財政	伊集	2~4年	春	2	H29以降入学生
	中級地方財政		伊集	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
	中級地方財政		伊集	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ	
	地域経済政策		居城	2~4年	春	2	H29以降入学生	
	中級地域経済政策		居城	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
	中級地域経済政策		居城	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ	
	国際環境経済論		氏川	2~4年	春	2	H29以降入学生	
	中級国際環境経済論		氏川	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
	中級国際環境経済論		氏川	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ	
	現代社会福祉		相馬(直)	2~4年	第4ターム	2	H29以降入学生	
	中級現代社会福祉		相馬(直)	3~4年	第5ターム	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
	中級現代社会福祉		相馬(直)	2~4年	第5ターム	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ	
	比較農業政策		倪卉	2~4年	第1ターム	2	H29以降入学生	
	中級比較農業政策		倪卉	3~4年	第2ターム	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
	中級比較農業政策		倪卉	2~4年	第2ターム	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ	
	課題プロジェクト演習 地域経済		一	2~3年	休講	2	経済学部生のみ受講可	
	途上国経済		山崎	2~4年	春	2	H29以降入学生	
	中級途上国経済		山崎	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
	中級途上国経済		山崎	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ	
	地域イノベーション政策		遠藤	2~4年	秋	2		
	家族と法		常岡	3~4年	春	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)	
	家族と法		常岡	2~4年	春	2	経済学部DSEP生のみ	
	民法(親族・相続)		常岡	2~4年	春	2	経済学部LBEEP生のみ	
	経営学部	産業分析	貴志	3~4年	春	2		
		Production and Operations Management	鈴木	3~4年	秋	2	旧:生産システム論 R4より科目名変更	
		生態会計論	八木	2~4年	秋	2	旧:生態会計論Ⅰ	
	理工学部	環境管理学	中井	3~4年	秋	2		
		データサイエンス	森・長尾・富井	3~4年	春	2		
	都市科学部	コミュニティデザイン講義	佐藤(峰)	1~4年	秋	2	都市科学部の2020年度以前入学の学生は「国際開発学講義」で履修。	
		都市生態学	佐々木	1~4年	第4ターム	1		
		保全生態学	佐々木	2~4年	第5ターム	1		
		生態リスク学入門	松田 他	1~4年	第1ターム	1		
		里地と山地の生態学Ⅰ	小池(文)他	2~4年	第4ターム	1		
		里地と山地の生態学Ⅱ	酒井 他	2~4年	第5ターム	1		
		都市基盤計画論	松行	1~4年	第5ターム	1		
		地域・都市計画	松行	2~4年	第4ターム	1	都市科学部の2020年度以前入学の学生は「都市計画と交通」で履修。	
		都市基盤解析論	安部 遼祐	2~4年	秋	2		
		居住空間の計画Ⅰ	藤岡	2~4年	第1ターム	1		
		居住空間の計画Ⅱ	藤岡	2~4年	第2ターム	1		
		建築環境計画Ⅰ	田中(稲)	2~4年	第1ターム	1		
		建築環境計画Ⅱ	田中(稲)	2~4年	第2ターム	1		
		都市と都市計画Ⅰ	高見沢	2~4年	第4ターム	1		
		都市と都市計画Ⅱ	高見沢	2~4年	第5ターム	1		
		都市環境リスク共生論A	佐土原	2~4年	第4ターム	1		
		都市環境リスク共生論B	佐土原	2~4年	第5ターム	1		
		コミュニティデザイン演習Ⅰ	佐藤(峰)	2~4年	第1ターム	1	※都市科学部の2020年度以前入学の学生は「コミュニティ開発演習Ⅰ」を履修。	
		コミュニティデザイン演習Ⅱ	佐藤(峰)	2~4年	第2ターム	1	※都市科学部の2020年度以前入学の学生は「コミュニティ開発演習Ⅱ」を履修。	
		高齢社会とリスクA	安藤	2~4年	第4ターム	1		
		高齢社会とリスクB	安藤	2~4年	第5ターム	1		
		環境・エネルギーシステム論Ⅰ	鳴海	2~4年	第4ターム	1		
		環境・エネルギーシステム論Ⅱ	鳴海	2~4年	第5ターム	1		
	都市・地域経済学Ⅰ	遠藤	2~4年	第1ターム	1			
	都市・地域経済学Ⅱ	遠藤	2~4年	第2ターム	1			

実践科目	全学教育科目/ 教養教育科目	地域課題実習Ⅰ	志村 他	1～4年	春	1	H31より新規科目 H31より新規科目 R4より新規科目 R4より新規科目 H31より実践科目にカテゴリ変更 H31より実践科目にカテゴリ変更
		地域課題実習Ⅱ	志村 他	1～4年	秋	1	
		地域課題実習Ⅲ	志村 他	2～4年	春	1	
		地域課題実習Ⅳ	志村 他	2～4年	秋	1	
		地域課題実習Ⅴ	志村 他	3～4年	春	1	
		地域課題実習Ⅵ	志村 他	3～4年	秋	1	
	実践地域と起業		1～4年	休講	2		
教育学部	学外活動・学外学習Ⅰ	担当者未定	1～4年	春・秋	2		

●昨年度まで地域交流科目の選択必修科目（講義科目）に登録されていた講義で、
今年度から開講になっている講義も、修了認定をするための科目として位置づけられます。

開講科目等はこちら

講義科目	全学教育科目/ 教養教育科目	健康スポーツ演習B	R2年度まで開講	-	-	2	ウォーキング(R2時間割コード:9109148)
		健康スポーツ演習B	R元年度まで開講	-	-	2	臨海実習(9109148)、スキー(9109152)
		グローバルビジネス・コミュニケーション	H29年度～科目名変更	-	-	2	※H29「グローバル化と日本人」科目名変更
	教育学部/ 教育人間科学部	自然地理学	R2年度まで開講	-	-	2	
		生物学特講Ⅰ	R3年度まで開講	-	-	2	
		共生社会論ID(社会生活論)	R元年度まで開講	-	-	2	
		共生社会論ⅡB(国際社会学)	R元年度まで開講	-	-	2	
	理工学部	グローバルゼーションと地域社会Ⅱ	R元年度まで開講	-	-	2	
		地域・都市計画	R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない
		都市基盤計画	R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない
交通計画		R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない	
居住空間の計画		R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない	
屋外気候と建築環境		R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない	
都市と都市計画		R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない	
建築・地域環境計画Ⅰ		R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない	
都市生態学		R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない	
生態リスク学		R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない	
里山生態学	R元年度まで認定	-	-	2	過年度科目のためR2以降は科目提供しない		
実践科目	理工学部	ROUTEプロジェクト				2相当	

実践科目：地域課題実習

Practical subjects: Global-Local Project Based Learning

令和4年度の地域課題実習も、「新型コロナウイルス感染拡大防止に対する横浜国立大学の行動指針」に従い、計画・実施していきます。
詳細の注意点や、対面計画書の申請手続きについては、地域実践教育研究センターより各プロジェクトの担当教員・代表学生にお伝えいたします。

- 本学の行動指針が2段階以上の場合：オンライン対応とする。
- 本学の行動指針が1.5段階の場合：感染拡大防止策を最大限講じ、部局長に届出を行い許可された活動は実施可能とする。
また、本学の行動指針1.5段階の各条件や方針に倣う。
 - ・ 教育上の必要性に応じて、感染拡大防止策を講じた上で対面授業を実施可能（いつでもオンライン授業に切り替えられる準備をしておく）。
 - ・ オンライン授業も積極的に活用。
 - ・ 課外活動（臨地調査）については、計画書等を（機構長に）提出し、許可された活動のみ実施可能。
- 本学の行動指針が1段階の場合：
 - ・ 感染拡大防止に留意し、通常通り実施。
 - ・ オンライン授業の可能性を探る。
 - ・ 課外活動については、感染拡大防止に留意し、実施可能。
 - ・ 海外での臨地調査は、外務省感染症危険情報レベル2以上の地域では禁止。国内での臨地調査は、国、自治体、相手先の行動指針等に基づく。

下記の紹介掲載欄の①～⑥の項目内容：①概要・目的・活動の流れ、②年間スケジュール、③当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力、④活動・ミーティングの頻度、⑤備考、⑥活動情報掲載サイト

NEW

転倒しない街共創ラボ

担当教員：○島圭介(環境情報研究院) 大沼雅也、田中 稲子、下野 誠通、
福田 淳二、泉 真由子、藤岡泰寛、坂田菜実、小林知恵
連絡先：shima-keisuke-sh@ynu.ac.jp / 内線：4148

- ①高齢者の転倒防止技術の社会実装を目指すリビングラボに参加し、様々な参加者との対話を通して、技術開発の方向性や社会への導入の方法を模索します。最先端技術で地域の未来を豊かにする活動に参加しませんか？
- ②年4～5回程度のリビングラボの開催と、10月にワークショップを予定しています。地域住民向けの情報発信イベントなど、調整・相談しながら開催します。
- ③地域の高齢者をはじめとする様々な参加者と積極的に対話・交流し、自身の意見を述べていただくことが重要です。ヒトの加齢に伴う機能低下への理解を深め、科学技術コミュニケーションの基本を学んでいただきます。
- ④2か月に一度程度リビングラボへの参加、サポート
- ・ 個別企画での活動・イベント参加
- ⑥<http://bsd.ynu.ac.jp/>

NEW

学生公募型PJ: キャンパスの魅力を耕すプロジェクト

学生代表：寺西遥夏 (連絡先: teranishi-haruka-hd@ynu.jp)
担当教員：藤原徹平 (都市イノベーション研究院)

- ①日干しレンガの構造物や仮設建築など、自分たちの手で大学の中に場所をつくる活動です。土や木など大学の中にあるものや使われていない場所など、隠れた魅力を見つけ出しカタチにしています。
- ②春が秋 MOOM (仮設建築) を建てる。/4月-5月 その年のプロジェクトの構想/6月-7月 計画と準備/10月-12月 プロジェクトの実施 (内容によって時期は変更の可能性あり)
- ③・土や木など身の回りにある資源を見つける観察力
・実際に自分たちの手で建築や場所を作る技術
・その場が必要とされることやものを考えるリサーチ力や思考力
- ④月一のミーティング/プロジェクトの進行に必要なミーティング (週1回程度)
- ⑤横浜国立大学は地域の人の散歩道や居場所にもなっている。また、災害や非常時、イベント時における地域拠点のあり方として屋外空間を考える。

NEW

キャンパスUD (ユニバーサル・デザイン) プロジェクト

担当教員：○藤岡泰寛、大原一興 (都市イノベーション研究院)
連絡先: fujioka-yasuhiro-fg@ynu.ac.jp / 内線: 4067

- ①本プロジェクトでは、第2食堂・ローソン前の広場(スロープや植栽を含む)を重点エリアとして、UDの観点から誰もが快適で使いやすい場所となるための実践活動を障がい学生支援室や施設部と協働しながら行います。
- ②春学期：現状調査、障がい学生支援室や施設部へヒアリング 植栽や花壇の計画・デザイン、サインの検討と実施
秋学期：広場や花壇の名前考案、プレート等のデザイン検討
- ③様々な心身の特性や考え方を持つ人の理解。プロセスも含めたユニバーサル・デザインの技術。多様な利用者に共感されるデザイン実践を通じたコミュニケーション能力の獲得。
- ④週一回程度、時期によっては隔週程度でのミーティングや活動を想定しています。
- ⑤植栽や花壇の整備、サインの設置等については、施設部と協議しながら実施を検討します。
- ⑥<http://shisetsu.ynu.ac.jp/gakugai/shisetsu/>
<https://www.shougai-support.ynu.ac.jp/index.html>

NEW 岩手サスティナブル・デザイン・プロジェクト

担当教員：○船場ひさお (地域連携推進機構)
連絡先：funaba-hisao-xw@ynu.ac.jp/内線：4219

- ①岩手県の自治体（一戸町、岩泉町、葛巻町、二戸市、釜石市、花巻市など）や地域の企業と一緒に、地域の抱えるリアルな課題の解決に取り組むプロジェクト。北東北の人々と持続可能な社会について考えます。
- ②4-5月：オリエン、6-7月：担当地域事前調査、8-9月：各地域の活動へ参加、10月：今後の活動計画作成、11-12月：各自の活動と振り返り
- ③北東北の小さな地域の置かれた現状を実感しつつ、その地域で暮らす人々と一緒に前向きに課題を解決する力を身につけます。企画力、突発力、継続する力などを習得しましょう。
- ④隔週に1回程度全体ミーティング開催。担当する地域の人々とやりとりや活動は、適宜決定。
- ⑤岩手や東北に興味・関心があれば、行ったことなどがなくても構いません。

REVIVAL 現代世界の課題の探索と協力の実践 ー「結」つくりプロジェクトー

担当教員：○小林普明 (国際社会科学研究院)
連絡先：kobayashi-takaaki-gv@ynu.ac.jp/内線 3611

- ①世界には、課題を抱えながらも面白い仕掛けを編みだし輝いている地域がある。そうした所に「押しかけ」、自分たちが加わることでできることは何かを考え、新たな価値を「共に創」ってゆく実践をするプロジェクトです。本年は、三重県鳥羽の漁村の「結」プロジェクトへの参画を予定している。
- ②夏休みおよび春休みにはそれぞれ、1週間程度の宿泊を伴うフィールド活動に参加することを想定。学期中は、座学やオンラインでの現場と繋いでの活動を随時実施。
- ③とにかく行ってみる、やってみる、といった実行力、企画力、運営力、ものごとを動かす力が身に付くであろう。
- ④学期中は週一程度でミーティングを実施する。Zoomや対面など、方法は適宜切り交ぜて活用。
- ⑤COVID-19前までは、横国ネパール・プロジェクトとして海外をフィールドとして活動していました。本年の現場は国内ですが、海外からの留学生との活動も予定しています。
- ⑥ <https://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/nepal/>
<https://www.yuitobaisobe.com/>

学生公募型PJ: Yokohama Univer-City

学生代表：日比野莉良 (連絡先：hibino-riira-zy@ynu.jp)
担当教員：三浦倫平 (都市イノベーション研究院)

- ①Yokohama Univer-City(YUC)とは、「大学をまちに開く」をコンセプトに始まった学生主導型プロジェクトです。常盤台キャンパスの空間活用やコミュニティの創造を通じて、学生・教職員・周辺住民にとって魅力的な地域づくりを行います。
- ②今年度は、町内会と連携した便利マップの作成やアーカイブ活動、ユニークな学内活動の支援、プレイスメイキングの手法を活用した研究・実践などを予定しています。
- ③PJ内外の人々と積極的に関わり、柔軟なコミュニケーションを取ることができ。また、もちろん知識や情報を活用し、学生独自のアイデアを生み出し、その実現のために積極的な行動ができる。
- ④全体ミーティングとチームごとのミーティングなど、最低週に一度の活動を目安にしています。
- ⑤学科や学年を越えて、個性的なメンバーで楽しく活動しています！HPやSNSで活動の様子をぜひ見てください！
- ⑥HP： <https://104scape.wixsite.com/yokohama-univer-city>
Twitter、Instagram、Facebookサイトもあり。

New - New Townプロジェクト -郊外住宅地のまちづくりを考える-

担当教員：○野原卓 (都市イノベーション研究院)
連絡先：noharat@ynu.ac.jp/nohara-taku-zs@ynu.ac.jp/内線 4065

- ①横浜市の特徴的な郊外住宅地の相鉄いずみ野線沿線（南万騎が原駅周辺）で、「みなまきラボ」（公×民×学）を拠点に、ベッドタウンを生き活きたとした「ニューニュータウン」にする。空きストック再生や地域とともに研究も行う予定。
- ②4月オリエンテーション、5～6月まきあるきツアー、プロジェクト検討、7～9月 課題解決のための提案、10月～ 企画準備・企画実施、11月 みなまきピクニック参加等
- ③自発的で積極的な「活動力」、地域の課題を見抜ける「洞察力」、魅力ある企画を立てる「企画力」、地域とともに動く「巻き込み力・コミユカ」、小さくてもよみから具体的な物事を実現することに力を注げる「実装力」。
- ④2～3週間間隔に一度のミーティング・月一回の地域の会議参画及び地域活動（不定期）の実施。
- ⑤地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。
- ⑥ <https://ynunewnewtown.wixsite.com/website> | Facebookもあり

NEW よこはまのかいしゃ魅力発見プロジェクト

担当教員：○船場ひさお (地域連携推進機構)
連絡先：funaba-hisao-xw@ynu.ac.jp/内線：4219

- ①横浜・神奈川地域の様々な企業を取材し、隠れた魅力や創業者・働く人たちのリアルを、学生目線で、学生に向けて発信することを目的とするプロジェクト。ネット経由ではわからない企業活動の現場を体験します。
- ②4-5月：オリエンテーション/6月：担当企業事前調/7-9月：企業取材/10-12月：発信方法検討&とりまとめ/1-2月：振り返り
- ③社会で活躍する大人たちへのインタビューを通して、聞く力、話を引き出す力といったコミュニケーション能力を身につけます。さらにわかりやすく発信するためのアイデアや表現力も習得します。
- ④隔週に1回程度全体ミーティング開催。担当企業への取材や発信のための活動は各チームごとに決定
- ⑤取材する企業は、横浜イノベーション研究会 会員企業をメインとします。
- ⑥ <https://www.facebook.com/yokohamainnovationlab>

データで捉える地域課題・地域経済2022

担当教員：○居城塚 氏川恵次 相馬直子 池島祥文 (国社)
連絡先：ishiro-taku-vr@ynu.ac.jp/内線 3567

- ①本プロジェクトは、横浜市・神奈川県をフィールドとして、学生自身が調査に取り組み、地域の素材を発掘することを目的とします。その成果を各自自治体や、企業との共同研究として社会に発信することを狙いにします。
- ②4月～5月 課題の設定にむけた検討会/6月～8月 活動/10月 中間報告会/11月～1月 活動/2月 最終報告会/3月 成果報告書の作成
- ③実際に地域の現場に飛び込むことができる学生を求めます。みずから課題の設定、調査、活動の遂行、成果報告に向けた準備・資料作成を進める能力を習得して欲しいと思います。
- ④基本的には、学生自身による自主的なプロジェクト活動になりますが、担当教員を決め、1から2週に1回程度の研究打ち合わせを行います。
- ⑤5人以上の参加がない場合には、グループでの活動が難しくなるため、個別研究になる場合があります。参加希望者は事前に教員と相談することをお勧めします。

ハマの屋台プロジェクト -屋台からのまちづくり考える-

担当教員：○野原卓 (都市イノベーション研究院)
連絡先：noharat@ynu.ac.jp/nohara-taku-zs@ynu.ac.jp/内線 4065

- ①「屋台」を使って地域の課題解決・活力向上を目指す。地域と協働し、まちを豊かにする屋台を、企画・設計・製作・活用（経営）まで一気通貫で考える。関内・常盤台・南万騎が原での活動のほか、新システム展開も検討中。
- ②4月：オリエンテーション、春学期：昨年度までの活動継続及び新規活動の準備、8～9月：地域の必要に応じて活動、秋学期：企画した活動の実施・実践
- ③屋台の企画から製作、使い方検討を通じて、「企画力」「分析力」「実装力」を高めるほか、地域や仲間を巻き込みコミュニケーションを採る「交流力」、そして、最後まで実現までこだわりをもつ「熱意」。
- ④2週に1回程度のミーティング及び不定期に地域活動（土日開催もあり）
- ⑤地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。
- ⑥ <https://www.facebook.com/hamanoyatai/>

学生公募型PJ: ワダヨコ

学生代表：○堀 雅也 (連絡先：hori-masaya-wt@ynu.jp)
担当教員：野原卓 (都市イノベーション研究院)

- ①大学の最寄りの一つである和田町駅周辺の地域の方々や学生を繋ぐことを目的とする学生主体の団体です。街のお祭りへの参加、独自イベントの開催、小学生の宿題等の手伝いを中心に非対面でも活動を続けています。
- ②防災フェア、クイズラリー、秋祭りなどのイベント実施・手伝いの他、ワダヨコ通信を発行します。また、街の方々と月の例会で企画を決定、実行します。
- ③街の課題を見つけ、街を活性化させるには、街に深く関わっていく社交性、課題解決の為の積極性、自ら行動する能動性が対面、非対面関わらず必要です。ただし街を好きになり、楽しく活動すれば必ず身につきます。
- ④月に数回学生内会議（昼休み等）と月1で教授、街の方との3者間会議。概ね数か月に1回イベントに参画。
- ⑤都市学部生以外も歓迎。特別な技術がなくても、熱意を持って参加して頂ける方の加入を期待します。
- ⑥ <https://wadayoko2010.wixsite.com/wadayoko>
Instagram @wadayoko_ Twitter @wadayoko_tw

REVIVAL モビリティ・デザインの実践

担当教員：○有吉亮、吉田聡 (都市イノベーション研究院)
連絡先：ariyoshi-ryo-gd@ynu.ac.jp/内線 4023

- ①神奈川県内をフィールドに、まちの魅力を高めるためのモビリティ（＝移動のしやすさ）のあり方を提案・実践する。2022年度は「みらいの案内地図」「Maasでまちづくり」「みらいの駅まちづくり」に取り組む。
- ②2週に1回程度のチーム会議、1か月に1回の外部機関を交えた合同会議を行いながら、各プロジェクトを実践的に進める。
- ③人々の移動のしやすさとまちづくりの関係性を学び、地域の課題解決や目標達成のための交通サービスのあり方、空間のあり方、情報提供のあり方などを考え、それらの具体的な実現方策を描き出す力をつける。
- ④月に1回、外部機関（行政、企業、市民）との合同会議。2週に1度程度のチーム会議。外部機関や地域と連携したプロジェクトへの参画等。
- ⑤京急電鉄(株)、(株)アットヨコハマ、LocalST(株) (YNU発ベンチャー)、横浜市、藤沢市と連携して取り組む。
- ⑥ 持続可能なモビリティシステム研究拠点 <http://www.rcsm.ynu.ac.jp/>

はまみらいプロジェクト

担当教員：○吉田聡、野原卓 (都市イノベーション研究院)、松田裕之 (環境情報研究院)
連絡先：yoshida-satoshi-vx@ynu.ac.jp/内線：4249

- ①横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係性を考えながら、横浜の未来を考えるプロジェクト。具体的には「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に取り組んでいく。
- ②2週に1回程度のミーティング、2か月に1回の外部組織（UDC-SEA）との会議を通して、年に2-3回のイベントを企画、開催予定。
- ③横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係性を考えながら、具体的に地域に対してどのようなアクションを興すことができるか、「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に横断的に考える力をつける。
- ④月に1回、外部組織（UDC-SEA）との会議/2週に1度程度の会議。/外部組織や地域と連携した企画への参画等。
- ⑤UDC-SEA（ヨコハマ海洋環境みらい都市研究会）と連携して取り組む。
- ⑥ <https://hamamirai.localinfo.jp/>

SSUI-yokohama PJ 学生公募型PJ: -横浜まちづくり学生会議PJ-

学生代表：○池谷 風馬 (連絡先：ikeya-fuma-wm@ynu.jp)
担当教員：尹 荳植 (都市イノベーション研究院)

- ①学生が主体となり、今後求められる街づくりの在り方を学び、考え、実践することを目的としています。実際の地域に入り込みながら、住民や行政、企業を巻き込んで、話し合いや実証実験を行うことを予定しています。
- ②春学期：西薬地域の方々との交流、横浜まちづくり事業への申請準備、産学チャレンジへの応募
秋学期：春学期の活動の継続、勉強会やフォーラムの企画運営
- ③街づくりに関する知識を実践的に習得することももちろん、この活動を通して、企画運営する能力、価値観の異なる主体間の中で話をまとめる能力、トレードオフの事案に取り組む力を身につけてほしいと考えています。
- ④月1回：地域住民との話し合い、全体での進捗確認、状況に応じて現地調査。/月2-3回：班ごとの打ち合わせ
- ⑤本PJでは、他大学の有志の学生も参加する予定です。令和3年度は3名の学生が参加いただきました。
- ⑥ <https://sites.google.com/ssui.info/ssui/>

まちに開いた交流の場のデザイン ー住宅地の価値を上げるー

担当教員：○江口亨 (都市イノベーション研究院)
連絡先：teguchi@ynu.ac.jp/内線：4064

- ①野毛山公園の裏の住宅地に、二軒長屋を改修して2Fをシェアハウス、1Fを地域に開いた場に「casaco」がある。その場の使い方を提案し、運営者の了解がえられれば提案内容を実行に移し、エリアの価値向上を目指す。
- ②（提案内容によって変わりますが、一例を挙げます）
4月～7月：現地視察、WSなどの運営の手伝い、企画立案
8月～9月：企画選抜/10月～3月：企画の実施
- ③地域に開いた場をつくるため、完全ボランティアでもなく、「稼ぐ」ビジネスを立案するでもなく、その中間の方法を用いる。全国に広まりつつあるソーシャルビジネスの方法論の一端を、実践を通じて学んで欲しい。
- ④年間を通じて1～2回/月程度、イベント開催日は除く。
- ⑤2名以上の応募があった時のみ実施します。また、1年間を通じて参加できる学生を希望します。
- ⑥ <http://casaco.jp> <https://www.facebook.com/YOKOCO.yokohama/>

学生公募型PJ: サコラボ

学生代表:○河野泰太 (連絡先: kawano-sota-rs@ynu.jp)
担当教員: 藤岡泰寛 (都市イノベーション研究院)

- ①左近山団地をフィールドに、地域活動やイベントを主催している学生団体です。団地に入居している学生と通いの学生がいます！教育/福祉の活動をしたい！団地に興味がある！まちづくりしたい！学生を募集しています。
- ②4-5月 団地の魅力採取、観察/6-7月 提案と計画/8月 イベントの開催/9-10月 提案と計画/11月 イベントの開催/12-1月 提案と計画/2月 イベントの開催 加えて商店街イベントへの参加
- ③実際に現地に足を運び、地域のNPOや住人と関わることで、左近山の魅力や伸びしろを見つけ、「リサーチ→考察→表現」という普遍的なプロセスの習得を目的とします。
- ④月一回程度の定例会 (時間:2時間程度@左近山連合自治会館)
 - ・個別企画での活動+地域の祭り
- ⑤地域課題実習としては2年目、地域と国大生の連携としては6年目の活動となります。
- ⑥Facebook:sacolabo Instagram:sacolabo_danchi
<http://www.chiiki.ynu.ac.jp/news/000044.html>

コットンおとなりさんプロジェクト

担当教員:○関 ふ佐子 (国際社会科学研究院)
連絡先: chako@ynu.ac.jp/内線 3536

- ①様々な世代の住民間のつながりづくりは、特に都会のマンション群では課題です。コットンハーバー地区をフィールドに、地域の団体や自治会と協力し、世代を超えた交流ができるコミュニティづくりを目指し活動します。
- ②居場所をつくるCCTパークか遊び場のプレイパークが、毎月1~2度開かれます。一年間を通じて、地域と相談しつつ活動内容を企画し、それを実施していきます。
- ③地域の団体、民生委員、自治会関係者等との交流を通じて、コミュニティづくりの現場の課題や解決方法を学びます。協働力、企画力、文章作成力、プレゼンテーション力、HPやSNSを利用した発信力も身につけます。
- ④週に一度ずつの全体ミーティングや学生間でのミーティング、不定期での地域との打ち合わせ・企画への参加。
- ⑤学部生と大学院生、日本人と留学生と一緒に活動します。
- ⑥<https://chotonarisan.org/>

南米農村部での学びを生かした横浜『共生』プロジェクト

-住居・福祉・教育・栄養改善の視点から-

担当教員:○藤掛洋子,大原一興,小宮正安,藤岡泰寛,三浦倫平,ファビアン・カルバントラ (都市イノ/渡部匡隆,杉山久仁子 (教育学)
連絡先: fujikake-yoko-mp@ynu.ac.jp/内線 3227

- ①横浜S団地において外国につながる子どもたち、高齢者を対象に南米農村にある共助の文化を取り入れたサポート空間を作り、就学や日常生活支援、栄養改善も含めた総合的なサポートを行い、生活の質の向上を支援する。
- ②南米に渡航予定の学生他が神奈川県、保土ヶ谷区役所、社協、NPOと連携し、地域の方々や企画を立案、実行する。年度末には報告書作成と学内外で活動報告を行う。
- ③外国につながる方々や高齢者の状況を理解し、社会的弱者やマイノリティの方々や協働する力を習得。調査方法の技術、ヒアリング能力、他組織との連携・企画・交渉・調整能力、コミュニケーション能力も含む。
- ④月曜日昼休み・7限 (予定)にて、講義、活動計画策定に加え、NPOや行政、現場での企画・立案・実施。
- ⑤履修希望者と代表教員が面談を行い、選抜を行う場合があります。

鶴見区のブラジル人住民との多文化共生

担当教員:○山崎圭一 (国際社会科学研究院)
連絡先: yamazaki-keiichi-zg@ynu.ac.jp/内線 3578

- ①県内のブラジル人とのつながりのある子どもたちを主な対象として、学習支援のあり方を研究する。鶴見区のNPO法人ABC Japanの活動とくに市立入船小学校での「つるみーによ」(宿題支援)に参加する。
- ②通年で「つるみーによ (火曜日午後)」に大学の授業と重複しない範囲で参加する。春学期:多文化共生や移民に関する文献をよむ。秋学期:活動内容をまとめる。
- ③日本の労働市場の国際化に関する経済学の知識、NPO法人の活動に関する知識、市立小学校といった公的機関とかかわるボランティア活動を進める能力、外国とつながりのある小学生への学習支援にかかわる能力、など。
- ④「つるみーによ」は毎週火曜日の14時30分~15時30分 (ハンデミックで停止する可能性がある)。文献の勉強会は随時。
- ⑤子どもたちは日本語で話すので、ポルトガル語の能力は必要ありません。
- ⑥ABC Japanの公式ウェブサイト: <https://www.abcjapan.org/>

再エネ経済循環 -再生可能エネルギーの地産地消を軸とした循環型地域経済のデザインプロジェクト-

担当教員:○山崎満広 (地域連携推進機構)
連絡先: yamazaki-mitsuhiro-jh@ynu.ac.jp

- ①富山県南砺市エコビレッジ推進課、(株)島田木材、南砺森林資源利用協同組合と連携のもと地元産の木質ペレットの地産地消による地域経済循環の促進を目指した活動を行っている。
- ②1月チームビルディング、
 - ②6~7月 現地調査と現状アセスメント、
 - ②8~10月 木質ペレットのプロモーション活動、
 - ②11月~2月 五箇山ライトアップイベントでの展示
- ③まちづくりにおける地域経済開発戦略の重要性、持続可能エネルギーと地域新電力についての基礎知識、再エネ地産地消にあたって既存のコミュニティの生業のあり方や、循環の仕組み作りに関わるアセスメントと戦略作り、デザイン思考、コミュニティ・デベロップメント
- ④月に1~2度のミーティング、適宜外部パートナーとの打ち合わせ、インタビュー、現地訪問など

ローカルなマテリアルのデザイン

担当教員:○志村真紀 (地域実践教育研究センター) 原口健一 (教育)
連絡先: shimura-maki-pw@ynu.ac.jp/内線 3579

- ①都市と農村・里山の間で地産地消や経済的な流れをつくりだすためにも、ローカルなマテリアルのデザインを通じて、持続可能な地域社会と暮らしに向けてデザインや建築設計で出来ることを考え取り組んでいきます。
- ②・春学期:昨年度のベンチの設置/小物・スツール・家具のデザイン・制作 (大型の場合は数を限定)
 - ・夏休み:工房での制作は1~2日に集中して実施
 - ・秋学期:木材を活かした建築のデザイン・設計に関する勉強/視察
- ③広葉樹および木材に関わる知識を身につけ、木材等の地域資源や風土を活かしたモノ・建築のデザインの基礎的なデザイン方法を習得することに期待ができます。
- ④隔週に1回程度のミーティングや実践活動。
- ⑥Instagram: タグ #ローカルなマテリアルpj

学生公募型PJ: アグリッジプロジェクト

学生代表:○松木杏志郎 (連絡先: face.kmmy@gmail.com)
担当教員: 池島祥文、小林啓明 (国際社会科学研究院)

- ①<農業による地域活性化>を「ビジネスによる活性化・地域コミュニティの活性化・技術研究による活性化」の3つの軸をもとに実現するために個々の学生の持つ興味を農業の視点と絡めながら活動していく。
- ②4~5月:組織作り・研修・既存プロジェクト始動/6~8月:活動/9月:中間評価・方向修正/10月~2月:活動/2月末:年度末報告
- ③個々人での関心分野・専門分野のスキルや知識を得ることはもちろん外部関係者との交渉力、プロジェクトマネジメント力、企画運営能力、自己分析能力等、社会に出てからも通じている能力の取得を重視する。
- ④自分の日程に合わせて活動していくプロジェクトのため、活動頻度は個々に委託している。
- ⑤プロジェクト参加メンバーについてはメンバー研修の一環として畑作業に1度は参加してもらう予定である。
- ⑥<https://agridge-chiiki-kasseika.localinfo.jp/>

おたくりエイティブタウン研究プロジェクト

担当教員:○野原卓 (都市イノベーション研究院)
連絡先: noharat@ynu.ac.jp/nohara-taku-zs@ynu.ac.jp/内線 4065

- ①モノづくりのまち大田区で、技術×創造×生活による「クリエイティブタウンづくり」を目指す。地域拠点「くりらぼ多摩川」の活動、おたくりオープンファクトリー (イベント) 等、まちのリサーチを通じて地域まちづくりの実践を図る。
- ②4月 オリエンテーション、5~7月 企画準備及び地域活動参加、8~10月 企画準備、11月 おたくりオープンファクトリー (イベント)、その他不定期の地域活動。
- ③今あるモノづくりのまちの課題を自ら「見抜き」、これを解決して豊かなまちとするための「企画を立て」、地域の方々や仲間を「巻き込み」、小さくてもよいから物事を積極的に実現することに力を注げる「実装する」力。
- ④週1程度のミーティング及び地域活動 (地域で月1度程度の会議及び不定期の地域活動 (土日開催もある))
- ⑤地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。
- ⑥<https://www.o-2.jp/mono/ooof2020/> <https://www.o-2.jp/mono/ooof/>
<https://www.o-2.jp/mono/lab/index.html>

みなとまちプロジェクト

担当教員:○志村真紀 (地域実践センター)
連絡先: shimura-maki-pw@ynu.ac.jp/内線 3579

- ①当プロジェクトでは、国内外のみなとまちから学びながら、静岡県清水港を対象地として実践的なまちづくりおよびブランディング活動を、地元企業、行政、農家、複数大学等との繋がりを大事にしながら実施・提供していく。
- ②大学の行動指針および地域の感染者数に応じながら、柔軟な実施計画を検討していきます。
- ③まちづくり、ブランディング・デザインを実践していくための能力として、文理融合な企画力、マネージメント力、コーディネータ力、デザイン力、データ分析等の素養を身につけていく。
- ④ミーティングは週に1回程度。清水へ行き現地活動するのは年に数回程度の予定。
- ⑤常葉大学・東京大学・九州大学等、行政、事業者、地元地域の皆さんと連携し活動します
- ⑥<https://www.ynu-minatomachipj.com>

都市の自然を楽しむライフスタイル

担当教員:○小池文人 (都市科学部環境リスク共生学科)
連絡先: koike-fumito-nx@ynu.ac.jp/内線 4356

- ①大学周辺を主なフィールドにして都市生活者が日常的に身近な自然を楽しむライフスタイルを設計して普及します。新しい近距離ツーリズムの開発のため自然や制度を学び、体験評価や招待イベントを行います。
- ②都市や近郊の潮干狩りや釣り、山菜や食用キノコ、都市に残った野生植物の鑑賞、散歩、大学キャンパスの自然体験、など季節ごとのテーマと地域の魅力発見活動。
- ③都市や近郊に自然があることを体験的に知る。利用の制約となる制度や利害関係についての知識と、解決する広い視野を得る。里山の自然の歴史や自然の管理技術・能力を得る。新たなツーリズムを開発し主導・普及する。
- ④およそほぼ毎週を予定。勉強会と週末を利用した調査や体験などを行う。
- ⑤野外活動を含む、週末を利用した調査や体験も行う。学外参加者 (中学、高校生など) をガイドする。
- ⑥ <http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lifestyle/>


学生公募型プロジェクトの募集

地域と連携した実践的な取り組みを横浜国立大学内の学生から広く公募します。学生公募型プロジェクトを立ち上げる学生は、事前にセンターへ連絡することによって、オリエンテーションの際にプロジェクトの紹介を行うこともできます。応募に関する詳細、条件、および申請書は、下記のアドレスやQRコード先からダウンロードしてください。


■ 申請書: http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/database/wp-content/uploads/2019/02/gb_2.pdf (下記のQRコード)

■ 提出締切日: 4月22日 (金) 17時まで

■ 提出: 地域実践教育研究センター (志村)
chiki-ct@ynu.ac.jp



各プロジェクトの昨年度までの活動内容は、地域実践教育研究センターのHPのサイト、あるいは右のQRコード先に掲載されています。
<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>



地域課題実習を履修・参画するみなさんへ:
実習時の怪我や事故の方が一の可能性を考慮して、入学時に学生教育研究災害傷害保険か生協学生総合共済 (生命共済) 等の保険に加入していない学生は、保険に加入してください。

「修了者」からのメッセージ



村本真菜

Mana MURAMOTO

教育人間科学部 マルチメディア文化課程 卒業
現在、名古屋鉄道株式会社

コア科目：地域連携と都市再生A・B
講義科目：ワークショップ「多角的共生をめざして」
建築の環境と防災、共生支援論A
実践科目：公共空間の活用とにぎわいづくりPJ

地域交流科目を受講する事で、まちづくりやNPOで活躍している外部の方と交流し、実践的な考えを知る機会を得ることが出来ました。講義で学んだ事を生かし、私は3年間、和田町商店街で賑わいづくりの活動に取り組みました。商店街や地域の住民の方々と共に和田町を盛り上げていく中で、人と人の繋がりの大切さを再確認し、身近な地域に対し自分がどのように関わっていくべきかを考える事が出来るようになりました。



山口大地

Daichi YAMAGUCHI

経済学部 卒業
現在、株式会社リクルート

コア科目：地域連携と都市再生B
講義科目：ベンチャーから学ぶマネジメント、現代の物流経営、国際環境経済論、比較農業政策、途上国経済、地域イノベーション政策
実践科目：アグリッジプロジェクト

地域交流科目では授業での経済学の理論と現場で経験する実践を並行して学ぶことで、理論がどう社会で使えるか？とワクワクする授業が増え、ゼロから始まる地域活動では机上の学びが度々活かされました。また、深い自己分析そして自己実現に必要な力が鍛えられ、私の「地元を世界一のまちに」という野望に役立つヒントも自分なりに見つけました。インターンも良いですが、自分のために大学をフル利用することをオススメします(笑)



市木晶子

Akiko ICHIKI

経営学部 会計・情報学科 卒業
現在、ソニー株式会社

コア科目：地域連携と都市再生A・B
講義科目：建築の環境と防災、環境をめぐる諸問題、企業環境システム論
実践科目：エコの芽を育てるプロジェクト

私は「エコの芽を育てるプロジェクト」に参画しました。1年目は上級生と私の4名でしたが、2年目は同学年の学生が加わり8名になりました。地域課題実習では学内から外に出て、地域の方に厳しくも温かいご指導を頂く機会もあります。自ら課題を設定し、積極的に動くことを通じて、沢山のものを得ることが出来ます。年度末には成果発表の機会があるので、自分のしたことをしっかりとプレゼンテーションできる能力を高めて下さい。



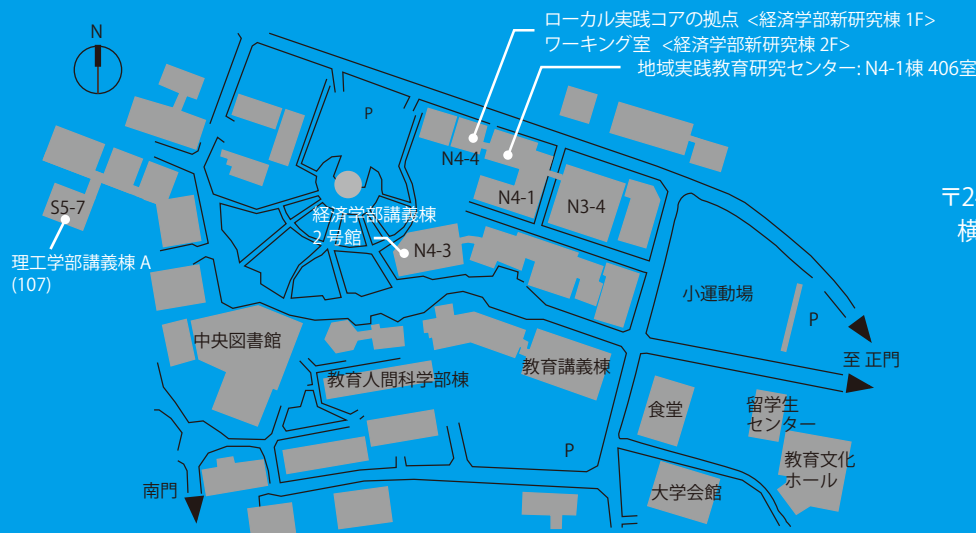
鈴木佳織

Kaori SUZUKI

都市科学部 都市社会共生学科
現在、東京都庁

コア科目：地域連携と都市再生A,B、神奈川のみらい、横浜学
講義科目：都市生態学、居住空間の計画Ⅰ・Ⅱ
実践科目：みなとまちプロジェクト

私は地域の方々と協力し、イベント運営や商品開発などを行いました。実際に地域に出て活動したことで、そこで暮らす人の生の声を聞くことができ、授業での学びを深めると共に、それ以上の知見が得られたと感じています。また、活動する上では主体性や積極性、仲間とのチームワークが不可欠でした。活動を通してそうした力を養えたことは、今後に繋がる財産になったと思います。ぜひ積極的にチャレンジしてみてください！



■ 問合せ・連絡先：
地域実践教育研究センター

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3
横浜国立大学 経済学部1号館 406号室
TEL&FAX : 045-339-3579
chiki-ct@ynu.ac.jp
<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>

